



東京都家庭薬工業協同組合会報

かていやく

平成20年1月 通巻82号



シャクヤク (芍薬)

かていやく

本組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上をはかることを目的とする。

定款 第1章 第1条(目的)より

目次

通巻82号 2008年1月25日

年頭のご挨拶	堀 正典	3
新年のご挨拶	桜山 豊夫	4
歴史探訪 ～蔵書で綴る東洋医学～ 新春特集 北里東医研と医学史研究	小曾戸 洋	5
家庭薬ロングセラー物語／ノーシン		10
委員会だより 総務、薬事、GMP、流通、厚生、労務、IT（情報技術）、 消費者対応、情報協業化、広告統計資料、広報誌		12
第18回 GMP研修見学会レポート		21
EDI 協業化実験 報告		22
香港 ICMCM2007 共同出展		24
東京都薬用植物園イベント セルフメディケーションと家庭薬		25
家庭薬グラフィティー		26
事務局だより		28
編集後記		
表紙題字／第4代理事長	津村重舎	
表紙写真／わかもと製薬㈱代表取締役会長	牧田潔明	

表紙写真解説：シャクヤク（芍薬）

中国原産で「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿はユリの花」と古くから美人の例えに引用された豪華な花で、根は漢方の要薬として、鎮痛、鎮静、鎮痙等に用いられます。（東京都薬用植物園で撮影）

年頭のご挨拶

東京都家庭薬工業協同組合
理事長 堀 正 典



皆様、明けましておめでとうございます。
組合員の皆様には良き新年をお迎えになったことと存じます。

昨年は、世界陸上大阪大会の女子マラソンで土佐礼子選手が銅メダルを、柔道の谷亮子選手が出産後初の国際大会に臨み、金メダルをそれぞれ獲得したほか、史上初の日本人所属チーム同士の対戦で盛り上がりをもせた大リーグ・ワールドシリーズなど、スポーツの分野では日本人選手の活躍が続きました。一方で、暖冬や夏の猛暑などの異常気象が発生し、地球温暖化の進行が危惧されるところであります。また、能登半島や新潟県中越沖などの地震も相次ぎました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げますとともに、今年こそは平穏無事な一年であることを願ってやみません。

さらには、食品の健康やダイエットに関するテレビ番組でのねつ造の他、食品業界での期限切れ原料の使用、製造日・賞味期限表示の改ざん・偽装なども相次いで発覚するなど、食品の安全性を揺るがせる重大な事件が続きました。我々の業界におきましても、安全・安心で健康な国民生活を預かる当事者として、他人事ではすまされず、消費者の信頼を裏切るこれらのような行為は、決してあってはならないと改めて身の引き締まる思いがいたしました。

さて、日本経済に目を向けますと、緩やかな景気回復基調の延長線上にあるものの、サブプライムローン問題、原油価格の高騰、改正建築基準法施行の影響などを

受けて、さまざまな先行きに対する不安感が急速に拡大してきており、家庭薬業界においても、引き続き厳しい事業環境の中にある状況に変わりはありません。経済成長に大きく関わる人口についても、政府が閣議決定した「2007年版少子化社会白書」によれば、近年の出生率下落に歯止めがかり、一昨年には上昇に転じたものの、昨年は再び減少傾向となり、楽観視できないと指摘されております。日本は今まさに、持続可能な社会保障制度の構築のための喫緊の課題が山積しているといえます。

今年は、平成21年の改正薬事法の全面施行を目前に控え、我々の業界の対応としても、新たな医薬品販売制度等これまで取り組んできたさまざまな議論に一定の具体的な方向性を見出し、仕上げが始まっていくことになります。組合員各社におかれましても、さまざまな準備に追われることになるかと思いますが、今回の法改正を家庭薬の再浮上の契機と捉えて誠意ある対応をお願いいたします。

昨年、組合は発足60周年を迎えることができました。次の70周年、そして80周年とさらなる業界の発展に向けまして、生活者の視点に立った家庭薬の提供のため組合の事業活動を展開し、引き続き社会に貢献し、国民からの支持・信頼を得られるよう皆様とともに最大限の力を出し切り、直面する多くの課題に当たっていくことをお誓い申し上げまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

東京都福祉保健局健康安全室
室長 桜山 豊夫



新年明けましておめでとうございます。東京都家庭薬工業協同組合の皆様におかれましては、よき新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日ごろから東京都の薬務行政に格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

東京都では、新型インフルエンザ等の感染症や大規模食中毒など、様々な健康危機に迅速かつ機動的に対応するため、「健康危機管理センター（仮称）」を整備するとともに、エイズ対策など喫緊の課題に効果的に対応する一方、総合的な花粉症の予防・治療対策を進めるなど、都民の健康を守り、安全・安心を確保するために、今後とも総合的な健康危機管理対策を推進してまいります。

薬事関係では、一昨年6月、良質な医療を提供する体制の確立を図るため、医療法等の改正がなされ、薬局が新たに医療提供施設として明確に位置づけられました。医薬品などの供給拠点として、地域医療に、これまで以上に貢献することが求められるなど、薬局の重要性が評価される中、都民の期待も高まっています。

また、薬事法の改正に伴い、患者が適切な医療を選択できるよう、薬局で提供されるサービス情報について、薬局開設者並びに都道府県知事による公表が義務づけられました。昨年12月、インターネット上での公表を契機として、都は、薬局と連携して、この制度を推進してまいります。

このほか、医薬品の販売制度が46年ぶりに大改正となりました。新たに登録販売者制度が創設されるなど、医薬品販売の体系が大きく変わります。

一方、近年、青少年の間で薬物の乱用が拡大しております。そこで、昨年12月、東京都における薬物乱用対策をより効果的に推進するための基本的考え方について、東京都薬事審議会から最終答申を頂きました。今後、この答申を踏まえ、都の薬物乱用施策の充実、強化を図ってまいります。

このように、変化する薬務行政の動向を見据え、都民の保健医療水準の向上や薬物乱用の防止を進めていくには、行政の取組だけで解決できるものではなく、皆様との連携が不可欠であります。

幸い、皆様におかれましては、いわゆるセルフメディケーションの考え方を踏まえ、長い伝統と多くの愛用者を有する家庭の常備薬を取り扱う家庭薬のプロとして、多くの国民に信頼されています。今後とも、品質管理と安全管理にこれまで以上の尽力をされ、国民の公衆衛生の向上に寄与されとともに、公共の福祉に御貢献いただきますことを切に期待しています。

結びに、皆様の御健勝とますますの御繁栄を祈念いたしまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。

新春特集

歴史探訪

～蔵書で綴る東洋医学～

北里東医研と医学史研究

北里研究所教授 小曾戸 洋

「かていやく」に深い関わりをもつ東洋医学は、悠久の歴史のなかを歩み続けてきました。その着実な歩みを遡るためには、過去の文献を丹念にひもといていくしかありません。北里研究所にある東洋医学総合研究所は、わが国最初の東洋医学の総合研究所として昭和47年に開設し、研究部門の柱に医学史を置くことで、文献の研究や修復、収集に力を注いできました。

今回は東洋医学総合研究所医史学研究部部長である小曾戸洋教授にご執筆いただき、研究所の歩みとともに、東洋医学における名著や研究所内にある図書室・展示室を紹介していただきます。



小曾戸洋教授プロフィール

1950年、山口県生まれ。東京薬科大学卒業。日本大学医学部(生化学)にて医学博士。現在、北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部部長、北里研究所教授。日本医史学会常任理事、日本東洋医学会理事。編著書に『和刻漢籍医書集成』『小品方・黄帝内経明堂古鈔本残卷』(共編)『日本漢方典籍辞典』『中国医学古典と日本』『漢方の歴史』などがある。

私は東京白金の北里研究所にある東洋医学総合研究所で、医学史の研究に従事している者です。昨年5月、NHK教育テレビ「知るを楽しむ―歴史に好奇心」で「漢方なるほど物語」という連続企画番組をもちました。その際、蟾酥や龍腦のサンプルをお借りしたのがきっかけで、堀正典理事長の知遇を得ることができ、その御指名で本稿の執筆をお引き受けするにいたしました。

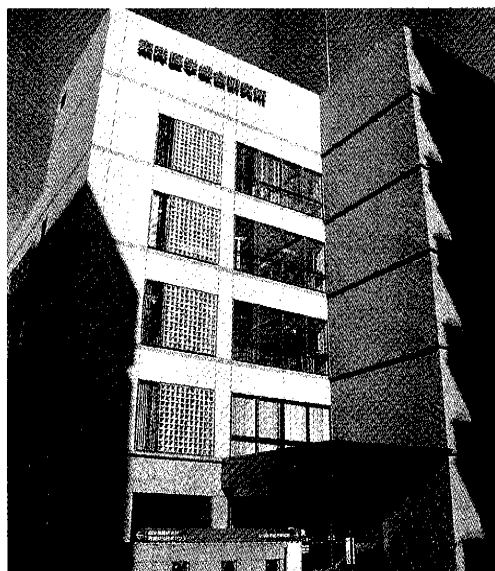
以下、私の所属する北里研究所と東洋医学総合研究所、そして私の医学史研究室と、その周辺について述べてみたいと思います。

●北里研究所と東洋医学総合研究所

北里研究所は大正3年に北里柴三郎によって創立されました。北里研究所は社団法人ですが、創立50周年記念事業として昭和37年に学校法人北里学園(北里大学)が創設されました。本年4月には両法人が統合して、学校法人北里研究所となることに決まっています。

東洋医学総合研究所は、わが国で最初の東洋医学の総合的研究機関として昭和47年に開設されました。それには東洋医学に理解のあった当時の日本医師会長・武見太郎の力添えがあり、初代所長には大塚敬節が就任しました。

大塚敬節は漢方の古方派で、昭和漢方の復興者として有名ですが、実は後世方にも、民間薬



▲北里研究所東洋医学総合研究所

にも造詣の深かった人です。民間薬に関しては『漢方と民間薬百科』(昭41・主婦の友社)や『薬草の知識と効用』(昭50・講談社)などの著述があります。

出身が土佐であったことから、かの牧野富太郎とも親交がありました。高知市の牧野植物園には大塚敬節生誕百年を記念した顕彰碑が建てられています。高知へ旅行の際はぜひお訪ねください。



▲初代所長 大塚敬節



▲『漢方と民間薬百科』(昭41・主婦の友社)



▲大塚敬節顕彰碑（高知市・牧野植物園）

大塚敬節が昭和 55 年に没して、矢数道明が第 2 代東医研所長に就任。矢数道明は大塚敬節らとともに昭和漢方の復興に尽力した立役者で、臨床手腕もさることながら、漢方における医学史研究の重要性を深く認識していた人でした。



▲第2代所長 矢数道明

た。著書は大塚敬節と並び、等身大ほどあり、医学史方面では『近世漢方医学史』（昭 57・名著出版）の名著があります。矢数道明はこの著で慶應義塾大学より文学博士号を贈られ、医師で、医学と文学の両博士号を持つ希有な学者になりました。

東洋医学はいうまでもなく悠久の歴史を背景にもつ伝統医学です。その経験知識は過去の文献に集約されているので、とりわけ漢方研究

において医学史・書誌文献学は必須の実用学です。矢数道明の強い要望によって、昭和 57 年 4 月、東医研に医学史の研究部署が設置され、不肖私がその責任者を命ぜられました。

矢数道明は昭和 61 年に東医研所長職を退き（平成 14 年没）、大塚恭男（敬節の長男）が第 3 代東医研所長となりました。大塚恭男は当時、日本医史学会の要職にあり、父敬節や矢数道明に勝る医学史通。東医研における医



▲第3代所長 大塚恭男

学史研究推進に力を入れ、平成 4 年には従来の医史文献研究室を医史学研究部に昇格させました。現在は花輪壽彦が第 4 代東医研所長に就任しています。

●医学史研究の概要

北里東医研は診療部門（漢方・鍼灸・薬剤）と研究部門の二部門からなり、研究部門は臨床研究部・基礎研究部・医学史研究部に分かれています。すなわち医学史は東医研の研究の三本柱の一つを支えています。

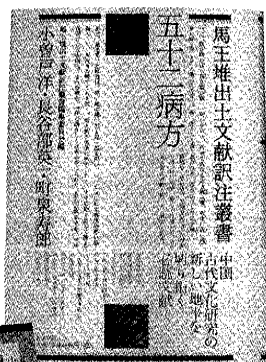
医史学研究部の大きな使命の一つは、日本や中国をはじめ、世界中にある東洋医学文献を調査し、整理し、解析し、評価し、ひいてはそれを現代医療の資として提供することにあります。

漢方医学の基本は、『黄帝内経』『神農本草経』『傷寒論』『金匱要略』あるいは『史記』扁鵲倉公伝など、中国漢代に書かれた医学古典にあり、これをないがしろにすることはできません。またそれ以前、紀元前に書かれ、近年出土した医学関係の古文獻（たとえば2200年前の馬王堆帛書）もあります。我々は数十年来、最善本の発掘調査などに大きな成果を挙げてきました。これら古典に関する当方の研究出版は枚挙に遑がありません。最近では、中国側の研究をはるかに凌駕した『馬王堆五十二病方』の復元・訳注研究があります。（平17・東方書店）

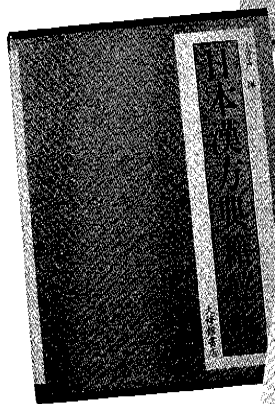
日本の漢方文献に関する調査研究も当研究部の大きな柱です。これらを網羅研究した『日本漢方典籍辞典』（平11・大修館書店）という書や、漢方の通史を平易に述べた『漢方の歴史』（平11・大修館書店）という著書も出版しています。

医史学研究部は収益を目的としない公益部

『馬王堆出土文献』
訳注叢書
五十二病方
（平17・東方書店）



『日本漢方典籍辞典』
（平11・大修館書店）



『漢方の歴史』
（平11・大修館書店）

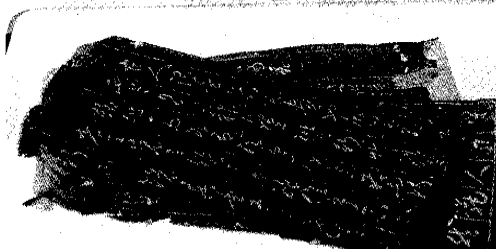
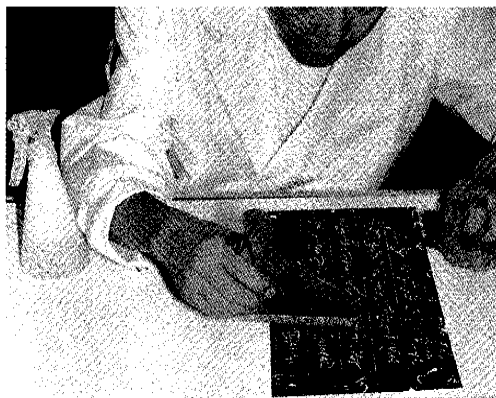


門ですから、研究費は文部科学省の科学研究費補助金をはじめとする助成金に依存する部分も少なくありません。

たとえば平成14年～17年度には「江戸時代医学・本草学資料の整理と研究」と題するテーマで、文科省から科研費を導入し、日本に現存する漢方関係（本草・民間薬も含む）の古文獻の調査研究を行い、大部の調査報告書を刊行しました。

古書・古文書・古器物の修復も当研究部の重要な仕事の一つです。長い歳月を経てかろうじて今日に伝えられた古文物の中には、虫害・鼠害・水浸による腐蝕などで、ボロボロになったり、開けなくなったものも少なくありません。これらの修理には特殊な技能が必要ですが、当研究部では修復技術の開発、改善、また技能者の育成につとめ、日々修繕の作業を行っています。地味であり評価されないむきもありますが、先人が残してくれたかけがえのない文化遺産を大切に修復、保存し、次の世代に伝えていくこと、これこそ当研究部に課せられた最も基本的な義務であると考えています。

当研究部にはインナーゼン機能を備えた耐火保管室を設け、大塚修琴堂文庫、日本漢方医



▲古医書修復の様子



◀▼貴重古医書収蔵室



学研究所委託石原文庫、岡田昌春文庫、多紀家文庫などの貴重古医書を収蔵しています。

別に北里大学図書館東医研図書室があり、当研究部が管理を行っています。ここには東医研創立以来、35年にわたって収集してきた一万点を超す東洋医学関係の図書（単行本・雑誌）を架蔵し、研究所員の学習、研究に供しています。東洋医学関係では日本一、いや中国でもこれほどまとまった図書館はないと思います。原則として一般の利用には応じていませんが、申し込めば閲覧の便宜をはかることは可能です。

訪問者、見学者のためには東洋医学資料展示室があります。ここには漢方薬のサンプル、東洋医学の歴史を図説したパネル、貴重古医書や書画、製薬器具の一部が展示してあります。

以上簡単でしたが、与えられた紙面は尽きました。東京都家庭薬工業協同組合会員の皆様、港区白金近くにおいでの際は、ぜひ北里東医研に足をお運びください。

（文中、敬称は省略させていただきました）



▲東医研図書室



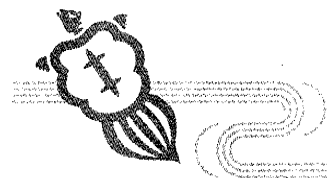
▲東洋医学資料展示室



▲東洋医学資料展示室



▲東洋医学資料展示室



ノーシン

ARAX 株式会社アラクス

●「頭痛にノーシン」の誕生

「スペインかぜ」が世界的な規模で猛威を振るった1918年(大正7年)8月、荒川長太郎合名会社(現株式会社アラクス)が頭痛薬を発売した。発売に当たり、医学博士の森田資孝先生の協力を得て、その成分はアミノピリンとカフェインを処方したものとなった。この頭痛薬こそが『ノーシン』である。

『ノーシン』の命名については諸説があり、「脳が新しくなったようにスカッと頭痛が治る薬」という意味の「脳新」説が最も有力である。これ以外にも、脳神経薬である「脳神経の薬」を略した「脳神」説、中国の医薬の神様「神農」



▲ノーシン錠剤
(大正末期)

をひっくりがえした「農神」説などがある。発売から約90年が経過した今日では、残念ながら命名にあたって込めた意味を見つける術はない。

●時代にあった製品を製造する

消費者や生活者の健康を願い、健康を守る医薬品メーカーの使命として、時代に即した、より安全でより有効な製品を求めて研究開発を進めた結果、アセトアミノフェンを配合した新しい『ノーシン』の承認・許可を受け、1971年(昭和46年)6月に発売した。



▲ノーシン
(昭和30年代)

これを機会に、商品パッケージを青色にし、Nマークをシンボリックにあしらったデザインに一新した。従来の『ノーシン』のパッケージは発売以来50年以上

にわたって、そのシンボルカラーの赤色を基調としてデザインされていたので、その反色である青色を使用することは大きな冒険となった。しかし、新しい事への挑戦はメーカーにとってなくてはならないものであり、将来への大きな布石になると判断し、変更するに至った。この青色のNマークを使用したデザインは、35年以上経過した今でも、ブランドの記号として進化しながら受け継がれている。

前述のアセトアミノフェンを主成分とした『ノーシン』を発売してから5年の後、より良い鎮痛解熱効果を発揮する『ノーシン「AR」』を発売した。この製品は現在発売している『ノーシン』の原型となった商品である。



▲ノーシン「AR」

その後も当社では処方改良を進め、現在のACE処方による

『ノーシン』を1984年(昭和59年)に発売するに至った。『ノーシン』の主成分であるアセトアミノフェン(A)は中枢に作用して痛みや熱を速くおさえ、エテンザミド(E)がアセトアミノフェンと協力して痛みや熱をおさえる。カフェイン(C)はアセトアミノフェン、エテンザミドの痛みを抑える働きを助け、頭痛をやわらげる働きをする。

●薬包紙

『ノーシン』の発売から今日まで変わらないものの1つが、包装材料の薬包紙である。物資の乏しい時代には紙を確保することに窮したこともあったようだが、その包装形態を変える事はなかった。薬包紙を包装材料として使い続ける理由は、散剤である『ノーシン』を口の中で拡

がらないように上手に服用するためであり、さらに長期間安定した状態に保つために最適だからである。

包装材料の品質向上を目的に、薬包紙は1977年(昭和52年)『ノーシン「AR」』発売時にそれまでの単褐色クラフト紙から、純白ロール紙に変更された。紙質の選定にあたってとくに留意されたことは、医薬品の包装紙としてふさわしく、今まで以上に衛生的であること、厚みが均一であること、単位面積の重量にばらつきが少ないことのほか、機械作業を行う関係上、特性として紙の腰が強いこと、引っ張り強度の高いことであった。さらに薬包紙は『ノーシン「AR」』の生命線であるため、常に安定供給が可能なものではならなかった。これらの全ての基準を満たす用紙をさがして、経時変化試験を重ねた結果、純白ロール紙が適していることがわかり、採用するに至った。

●ノーシン ノーシン づつうに ノーシン

『ノーシン』の広告宣伝は1922年(大正11年)10月17日の新愛知(現中日新聞)に掲載したことから始まる。



づ・うには／脳神経専門薬／ノーシン／を直ぐ召し上げれ／忽ちきくのがノーシンの特長／而も又面白い程よく効あり／あれこれと用いて効なき人も是非召し上げれ／薬價・廿銭・卅銭・五十銭・壹円・貳円／本舗名古屋京町売薬貿易商 荒川長太郎全国各売店に有／同名の類似品あり特にご注意

▲初めて出した『ノーシン』の新聞広告
新愛知 1922年(大正11年10月17日)

この内容から察すると、鎮痛解熱薬の消費者への訴求ポイントは当時も現代と変わらず、速く効くことやよく効くことであったこと、さらに全国の小売店で扱われ、同種同効品が存在したことがわかる。この後、新聞広告を頻繁に行い、「ノーシン ノーシン づつうに ノーシン」の広告宣伝にて効果を高めていった。

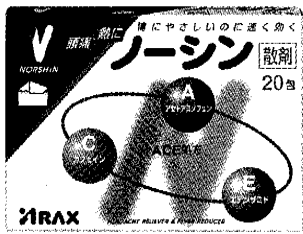
初掲載以降の新聞広告のスペース取りは、2行が基本とされていた。新聞社が記事を書き込んでいくと必ず幾分かの余白が生ずる。その余

白に着目して生まれた新聞広告掲載方法であった。余白が出来たら広告を入れる方式のため、どんな小さな余白でも入れようと思えばいくらでも入れることが出来た。他の広告主との区別をするために広告スペースの両横には必ず罫線を入れた。そうすると、おのずからスペースが大きくなり広告が目立ってくるようになった。

●ひとりひとりにもっとやさしく

『ノーシン』は頭痛によく効くように開発された製品であるが、消費者や生活者がその使用目的にあった製品を求めやすくすることが、当社のメーカーとしての姿勢であるとの考え方から、1978年(昭和53年)に生理時の痛みにも効果の高い『ハーモン』を発売した。このコンセプトに基づき、ノーシンブランドからACE処方をパワーアップした『ノーシンホワイト』、イブプロフェンを主成分とした『ノーシンビュア』という、生理痛に効果の高い処方の製品を発売し現在に至る。「時代にあった製品を製造する」という当時の考え方は、今日では「お客様が“欲しい”と思う」薬を形にすることを追求するという、当社コーポレートステートメント「ひとりひとりにもっとやさしく」に受け継がれている。

ノーシン



●効能

- 頭痛・歯痛・月経痛(生理痛)・神経痛・関節痛・腰痛・肩こり痛・咽喉痛・耳痛・抜歯後の疼痛・筋肉痛・打撲痛・ね

んざ痛・骨折痛・外傷痛の鎮痛

○悪寒・発熱時の解熱

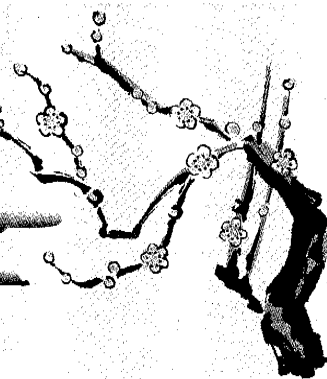
●有効成分

アセトアミノフェン300mg エテンザミド120mg
カフェイン70mg

●用法・用量

大人(15才以上) 1回1包を1日3回を限度とし、なるべく空腹時をさけて服用してください。服用間隔は4時間以上おいてください。15才未満の小児は服用しないこと

委員会だより



総務委員会

委員長 牧田 潔明
(わかもと製薬株式会社 会長)

10月31日に委員会を開催しました。平成19年度上期の組合予算の執行状況については収入・支出とも例年通りであることが確認されました。また、中小企業等協同組合法の一部が改正され、新しい定款参考例に沿って定款改正を行うべく検討を進めており、検討状況について理事会に報告することとされました。その他、日本製薬団体連合会より業界団体間、会員企業間、業界団体と会員企業間の年賀状および暑中見舞いについて原則廃止することとした旨連絡があり組合員に連絡しました。今後、決算・予算関係事項及び定款の変更整備について検討を進めてく予定です。

薬事委員会

委員長 田岡 照朗
(株式会社 龍角散 開発技術本部 安全管理室室長)

薬事委員会は、薬事法改正等に関連して直面する諸問題について、関係団体と連携し、懸案事項の検討を行っています。

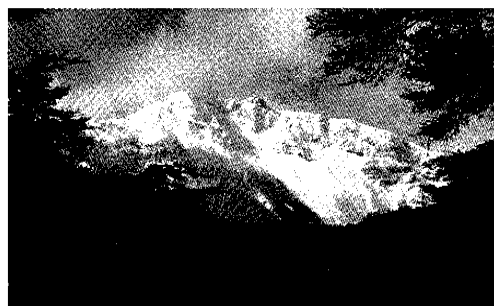
リスク分類が3月30日に告示されてから以降

の行政等の動きについてご報告します。

同月に平成18年度厚生労働科学研究古澤康秀(明治薬科大学教授)研究班の「一般用医薬品の添付文書等の改善に関する研究」が公表されました。6月26日には、「登録販売者試験実施ガイドライン作成検討会」の報告書がまとまり、これを受けて8月8日「登録販売者試験の実施について」の通知が発出されました。一方、日薬連で検討していた「一般用医薬品外箱等への副作用被害救済制度の表示の自主申し合わせについて」が10月18日に発出されました。その間7月10日「改正薬事法にかかる一般用医薬品外箱への区分表示等に関する要望書」を全家協を含む一般薬5団体の総意として、厚労省へ提出しました。

このように販売制度改正に関し様々な動きがあり、早急な対応を一般薬5団体として要望しておりますが、11月末現在の行政の状況をみると、区分表示の通知は平成20年の3月くらいになりそうです。

今回の販売制度の変更により「医薬品ごとのリスク分類表示」を容器・外箱へ、日薬連の



自主申し合わせにより「副作用被害救済制度」を外箱へ表示することになります。また、一般用医薬品の添付文書の改善に関する研究の「専門家に相談すべき場合」の内容を外箱に表示することについては厚生労働省で検討されていますが、この実施にはしばらく時間がかかりそうです。

この他、一般用漢方新 210 処方への対応で、効能・効果・用法用量等の変更の手続きが必要になります。

薬事委員会では、全家協を中心として、情報の集約を行っています。今後、販売制度の改正に関するパブリックボード、通知等が出されてくる予定ですので、それに対処すべく会員の方々への情報発信に努めてまいります。よろしくご支援お願い申し上げます。

GMP委員会

委員長 池上 進

(救心製薬株式会社 取締役 生産部門長補佐)

1. GMP 研修見学会

第 18 回 GMP 研修見学会が 10 月 25、26 日に 13 名が参加し、日新製薬株式会社（山形県）で行われました。設備面においては樹脂容器成形充填装置、添付文書計数機、瞬間滅菌器などが、日本で GMP 導入された当初から海外の査察を受けられたとのことで、ソフト管理面に尽力されていることが工場見学で理解でき、大変参考になったと思います。懇親会では、今回初参加の方も多く、行政指導、改正薬事法や空調設備面の事などで情報交換が行われました。(GMP 研修見学会については別掲 21 ページ参照)

2. 最近の動向

(1) 第 27 回 GQP・GMP 研究会

3 会場での総参加者は前年より約 180 名少



ない 1,502 名（前年 1,685 名）でした。テーマが従前ほど関心がないのか、年々参加者が減少しているようです。

(2) GQP・GMP 解説書について

GQP・GMP 研究会において進捗状況等の発表がありましたが、その後 GMP 省令第 12、14、15 条が暫定、16 条から 22 条までが検討中またはほぼ暫定まで進行しており、平成 20 年 3 月末には発刊されそうです。

(3) コンピュータシステムバリデーションについて

CSV についても研究会で発表がありましたが、会員の皆様方理解できたでしょうか？ 通知の発出は平成 20 年末が予定されています。今までシーケンサー、天秤、バーコードスキャナ等が対象となりますので、講習会などの機会を利用し、CSV について理解を深め、対応できるようにしてください。

(4) 局方・製剤総則の改正について

本号発刊される頃は既に意見募集が終了していますが、分類・構成が大幅に変更されます。開発作業においても問題が生じると思いますので、内容をよく確認してください。

3. 今後の委員会活動について

CSV についての理解を深めるため、情報提供の場を設けたいと考えています。また、昨年度は実現しませんでした。東西の情報・意見交換会を開催し、今後に役立てたいとも思っています。

流通委員会

委員長 赤坂 完一
(救心商事株式会社 常務取締役)

OTC 業界を取り巻く環境は依然として厳しく、業態を超えた業界再編の大波が寄せてきています。加えて、医薬品販売制度に係わる薬事法改正も待ったなしの状況にあります。

このような状況下で、全家協・流通委員会を10月25日に開催して、情報・意見交換を行い、会員相互の理解を深めました。なお、今回は、薬事法改正の動きに関して、田岡照朗全国家庭薬協議会薬事委員会副委員長より改正の内容および進捗状況等についてご説明をいただきました。

【議題】

1. 薬事法改正の動きについて
2. 一般用医薬品プロモーションコード委員会報告
3. 全国医薬品小売商業組合連合会の動向
4. 収益改善に向けての値引削減策と流通(小売業)の取り組みについて
5. 家庭薬キャンペーン(協同企画)について

厚生委員会

委員長 宇津 善博
(宇津救命丸株式会社 社長)

第65回家庭薬軟式野球大会は、21チームが参加し、東京薬業健康保険組合グラウンドにおいて野球委員会委員の協力のもと行われました。今回は、天候に恵まれず順延が続き、第52回大会以来の12月に入っての決勝戦となりました。結果は「家庭薬グラフィティ」に別掲しておりますが、ロート製薬チームが初優勝し12月9日(日)終了いたしました。なお、本年秋季

には第66回大会の開催を予定しています。新たに参加ご希望のチームがありましたら事務局までご連絡下さい。

東京都家庭薬工業協同組合ゴルフ会(TKGC)は、9月、11月に例会が開催されました。組合員の親睦の場として活用していただきたく、より多くの組合員の参加入会をお待ちしています。

労務委員会

委員長 荒井 聡
(株式会社 ツムラ 取締役人事部長)

労務委員会は、7月、9月、12月、3月の年4回定例会議を開催していますが、例年9月に実施する会議は、ツムラの軽井沢にある保養所を貸し切りにして、一泊二日の合宿形式で行っています。

毎年の人事労務関連のトレンドや各社の人事施策についての講義や労働判例による事例研究、また各社で抱えている労務問題について意見交換を行っています。

軽井沢というリゾート地での会議のため、参加者がリラックスしながら会議を実施しています。必然的に、参加メンバーの親睦も深まり、通常の会議では話せなかった労務問題を気楽に相談でき、その後の各社の人事施策のきつ



けにもなり、参加企業の担当者も大変有意義と感じています。

現在、労務委員会には、秋山錠剂、浅田飴、イチジク製薬、太田胃散、河合製薬、救心製薬、金冠堂、東京甲子社、トクホン、養命酒製造、龍角散、わかもと製薬、ツムラの13社が加入しています。

9月の委員会は9月6～7日にかけて開催し、9社11名の方にご参加いただきました。今回は、第一部情報提供では「労働審判制度について」(ツムラ 角田氏)「部門業績管理制度について」(養命酒 清水氏)についてご講演いただきました。

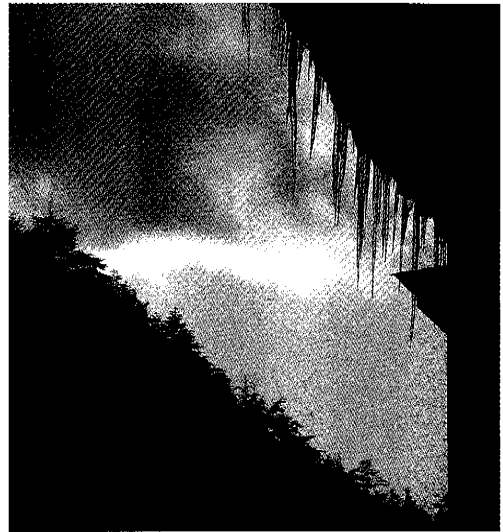
また、第二部では、特別講義として「当面する人事労務管理上の難題にどう対処するか」株式会社アールケーシー・アソシエイツの櫻井代表にご講演をいただきました。

台風直撃の中、講演後も参加メンバーと食事をしながら、人事労務の課題について、熱心に議論を重ねました。

このように年々、企業では、人をめぐる問題がクローズアップされており、社員にいかにもモチベーションを維持、向上させていくかの施策が、経営上の重要な課題となっており、労働審判制度、過重労働を防ぐ労働時間対策、メンタルヘルス対策、パワーハラスメント、雇用延長、ワークライフバランス、パート問題など人事労務管理の重要性が認識されてきています。

労務委員会では、先進他社事例も含めた最新情報や知識を習得し、自社の施策の参考としながら人事労務諸施策を立案し、具体的に実行していくための場としています。

12月の委員会は12月14日に行い、「賞与交渉の経過」について話し合いましたが、今後も、参加各社にとって有効な情報交換の場となるように、労務委員会を積極的に運営していきたいと考えています。



IT(情報技術)委員会

委員長 福井 厚義
(大東製薬工業株式会社 社長)

1. 東家協/全家協HPの「おくすり紹介」ページの充実について

薬事法の販売制度改正を踏まえたリスク分類の表示を検討中です。具体的には、JSM-DBに登録された情報が反映されるシステムで、会員メーカー各社はJSM-DBへのデータ登録とメンテナンスだけに注力すれば良いように配慮しています。なお、表示方法の詳細(例えば「A・B・C」、あるいは「第一類・第二類・第三類」など)は、閲覧した生活者が戸惑わないように、JSM-DBの表示と一貫性のあるものにすべきと考えています。最終的には、平成20年3月末までに発出されると思われる行政当局の方針を踏まえ、JSM-DBが採用する方法を適用する予定です。

2. 組合HPの会員専用ページへの入口ボタンの設置について

これまで、情報流出防止の観点から、会員専用ページ(<http://www.tokakyo.or.jp/bbs/>)



の入口を HP 上では非公開にしていたましたが、他団体の例を参考にした結果懸念される問題よりも会員各位から十分に活用されない方が問題であると考えました。そこで、会員の認知向上と使いやすさを優先するため、入口のボタンをトップページに設置しました。なお、ID とパスワードは従来と同じですが、ご不明な方は東家協・事務局へお問い合わせください。

3. 大家協と連携した全家協 HP の作りこみについて

東家協 HP は一般生活者向けを意識したもので、生活者に楽しんでいただきながら会員各社の家庭薬に関する情報を受け止めていただくことを意識して制作してきました。また、全家協 HP も当委員会で制作してきましたが、これまでは東家協と全家協の HP のコンテンツを相互に流用して情報のボリューム感を持たせながら、特に各種メディアへの対応や海外事業を行う場合など、対外的な家庭薬業界（全家協会員）の自己紹介で資料が必要なとき、パンフレットの代わりになるものを考えて制作してきました。

一方、大家協・広報部会でこのほど HP の制作体制が組織されましたので、今後は東西で連携しながら HP の充実をめざすことになり

ました。そこで、当面の課題である全家協 HP の今後の作りこみの協議や、活動状況の情報・意見交換を行うため、12 月 21 日に大阪で東西合同での委員会を開催しました。

4. 「お取り寄せ相談薬局プラン（仮称）」について

本企画は、例えば「〇〇は、どこで売っているの?」というメーカーの消費者相談窓口向けに対するお問い合わせの対応を基本的なケースに想定しています。「長年、愛用していた特定の内容量の家庭薬が、転居先の近くの薬局では扱っていない。」という消費者がいらっしゃるかも知れませんが、量販店が売れ筋アイテムに絞り込むなか、メーカーが内容量の違う多様な商品アイテムを作っても、消費者に届きにくい状況があるように思われます。

そこで、卸と一般店のご協力をいただき、あらかじめメーカーの手元にご協力いただく一般店のリストを用意しておき、その中から消費者が希望する最寄りの一般店で当該医薬品のお取り寄せを承る、という流れをシステムの第一段階と考え、まずは有志メーカー・卸・一般店によるトライアルを実現すべく関係先と調整しています。

また、このようなシステムを第一段階とすれば、これを足がかりに第二段階以後として様々な将来展開が期待されます。例えば各社の HP や東家協の HP で予約を承ることで、対面販売の建前を守り適正情報をご案内しながら、一般生活者にとって利便性の良い販売方法を実現できるかも知れません。

これらについて東西合同の消費者対応委員会をはじめ、大家協の流通・マーケティング合同部会で説明の場を設けさせていただきました。おかげさまで、様々な立場から有意義なアドバイスをいただいています。今後、平成 19 年末までには第一段階のトライアルを始めて、成果があれば勿論のこと、課題と今後の対応なども併せてご報告して参りたいと考えています。

消費者対応委員会

委員長 堀口登志夫

(養命酒製造株式会社 薬事業務部お客様相談室長)

この半年間におきましては、定例委員会と臨時委員会を各1回ずつ開催致しました。

なお、例年開催しています、東西合同研修会および消費者対応担当者研修会につきましては、予定講師のスケジュールや諸般の事情により開催を今年2月としています。

したがって、これらの活動内容詳細につきましては、次号の紙面にてご紹介申し上げたいと考えています。

以下に、簡単に委員会での活動内容について報告致します。

1. 定例委員会及び臨時委員会について

11月及び12月の2回にわたり、委員会を開催致しました。内容と致しましては、①第2回、日薬連くすり相談部会の内容要旨報告 ②今年2月8日～9日に開催予定の東西合同研修会での討議内容、講師の最終選定、スケジュール等の確認 ③今年2月28日開催予定の消費者対応担当者研修会のテーマについての討議、講師の選定等につきまして、活発に意見交換を行いました。

なお、東西合同研修会の内容につきましては、例年どおりとしていますが、今回は、販売制度改正に関連した講師を招聘し、店頭での一般用医薬品の情報提供のあり方、相談対応等について講演いただく企画を準備中です。

消費者対応担当者研修会におきましても、例年どおり、加盟各社様の消費者対応担当者の実務に直結する内容を選択し、スキルアップを目指した内容にしたいと思っています。

なお、講師と致しましては、今回も医薬品PLセンターの竹居事務局長を招聘し、ご講演をいただくこととしています。また、もう一人の講師としては、東薬工くすり相談部会より小林



広一部会長(エーザイ株式会社お客様ホットライン室)を招聘、お客様相談室の存在意義、日々やりがいを感じて業務を行える運営や環境作り等を含めた相談業務全般についてのご講演をいただくことにしています。

加盟各社様のご担当者様におかれましては、業務ご多忙のこととは存じますが、ぜひ本研修会の主旨をご理解賜り、ご出席いただきますようお願い申し上げます。

2. 「一般用医薬品外箱等への副作用被害救済制度の表示」に関する対応検討

10月24日(水)に開催されました日薬連くすり相談部会にて、副作用被害救済制度に関する外箱等への表示対応に関し、お客様相談部門として統一した対応を取っていくことが確認され、今後、一般消費者からの問い合わせに対するQ&Aを一般用医薬品関連5団体として調整していくこととなったことが、報告されました。

当委員会としても、東家協加盟社の意向も踏まえ、対応していくことと致します。

3. 相談業務に関わる委員間アンケートの実施と情報交換について

事前に各委員より、自社における相談業務全般に関する基礎情報をアンケート形式にて提出してもらい、その結果をそれぞれが紹介しながら、あらためて実務にかかわる具体的

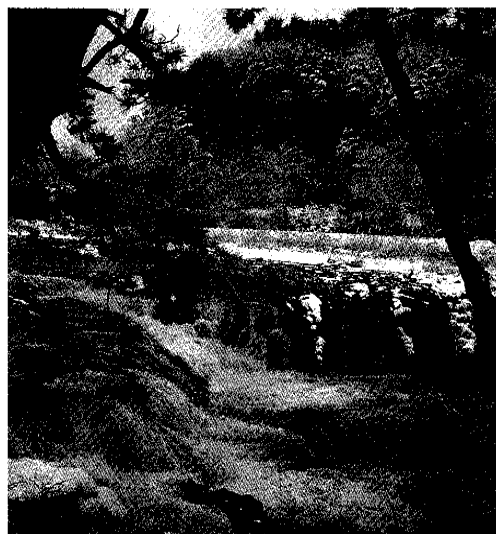
な情報交換を行いました。

また、他社における消費者対応について、より具体的にヒアリングしたい項目—副作用・品質・表示等についてのクレームへの対応方法（代金換金等）、お客様対応マニュアルやクレーム対応基準の整備状況、メンタルヘルスケアへの各社の取り組み内容等—につきましては、継続して適宜情報交換を行う予定となっています。

こうした情報交換を通して、自社の相談業務にかかわる問題点や課題等が抽出され、今後、不足部分や取り組むべき内容についてのヒントが得られると考えていますので、引き続き、活発に情報交換を進めていきたいと考えています。

なお、主なアンケート項目については、以下のとおりです。

- 総コール数（問い合わせ、相談、クレーム、有害事象情報の総件数）
- 受付方法（電話、文書、メール、FDの現状等）、受付時間等
- クレーム対応（クレーム品回収方法、クレーム対応解決までの日数等）
- 対応部門人数、社員の平均年齢、経験年数、新人コミュニケーションの教育研修
- 安全管理業務担当者の所属する部門
- お客さまへの情報提供、啓発活動



●お客さま情報のデータベース化とお客さま情報の社内フィードバックについて

●相談室担当者のスキルアップ、モチベーションアップのためのツールの有無

●お客さまの声を経営に反映させる仕組み

●メンタルヘルスケアへの取り組み（電話対応のローテーション、休憩、開放日）、等

また、これに加え、対応苦慮事例や難クレーム事例の紹介、相談対応にかかわる情報交換等の活動につきましては、今後とも継続して行っていきたいと考えています。

一般用医薬品の販売制度が大きく変わろうとしており平成21年には完全実施されることになっています。既に、昨年8月には、登録販売者試験の実施要項が発表されています。今後、各種施行通知が出されていくものと存じます。

お客様相談部門に取りましても、種々の対応を求められていくものと考えます。当委員会と致しましても、東家協所属各委員会並びに他団体との関係を強化し、鋭意情報収集に努めると共に、薬事法等の勉強会をはじめ、相談業務からみた対応課題等、加盟各社への情報発信を含め、さらに精力的に取り組んでいきたいと考えています。

以上、ご報告致しましたように、当委員会におきましては、今後とも、メンバーで力を合わせ、定例委員会及び各活動を通して、様々な情報を収集、発信しながら、東家協加盟各会社全体の消費者対応に関するスキルアップを図るべく、積極的な活動に取り組んで行きたいと考えています。

どうぞ、このような主旨をご理解いただきますとともに、今後とも、皆様におかれましては、ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

情報協業化委員会

委員長 藤井 隆太
(株式会社 龍角散 社長)

当委員会が中心となって行ってきた活動を要約すると次の通りです。

1. EDI化について

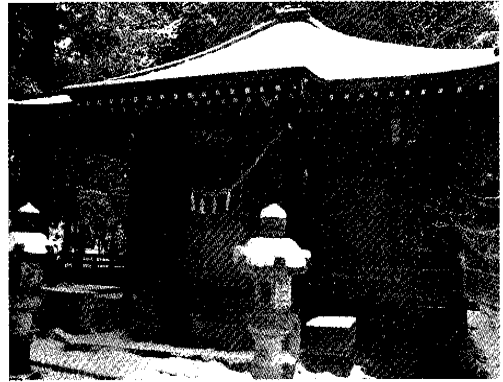
本件は平成 17 年に「日本医薬品卸業連合会」からの対応要請により、経済産業省補助金事業の結果を受ける形で検討を開始しました。具体的には平成 18 年より 1 年間、委員会社 2 社を代表例としてプラネット VAN に接続し、課題やメリットを抽出しています（共同運用を想定した VAN 会社経由）。今後は、接続卸の拡大と現存する複数システムへの対応検討を課題として、試験運用を継続する予定です。本件に関しては別項に詳細な内容が掲載されています（別掲 22 ～ 23 ページ参照）。

2. 全国家庭薬協議会家庭薬キャンペーン

日経新聞誌面でも紹介された「サンリオ企画」の反省を踏まえた新たな取り組みとして参加企業の定番製品を特定量販店の全店舗で集合展示し、店頭活性を図ります。本件に関しましては流通委員会に絶大なるご協力を賜った結果、現段階で 24 社の参加を予定しており、来春の展開を目指して対象量販企業と交渉中です。経営者層のみならず参加企業の営業担当までもが団結できた初めての例として期待されます。

3. お取り寄せ相談薬局プラン（仮称）

量販店では店頭回転率が重視されるため、愛用者がいながら定番がカットされる例が少なく、各メーカーへのクレームが増加傾向にあります。本企画では各社のクレーム対策の一環として既存の販売ルートに早期配送の道筋をつけておく方法を検討しており、早期に試験運用を開始する予定です。試験運用の結果により、



対象卸と配送範囲の拡大や、生活者への啓発も想定しており、いずれは「あなたの為の専門薬ココにあります!」というコンセプトで展開したいと考えます。尚、本企画は IT 委員会、消費者対応委員会とも連携して推進しています。

4. 展示会関係について

(1) 国際現代化中医薬及健康産品展覧会 (ICMCM)

昨年に続き香港で 8 月 16 日(木) ～ 20 日(月)に開催された ICMCM に 14 社が参加しました（展示会の様子は記事別掲 24 ページ参照）。

(2) 東京都薬用植物園イベント セルフメディケーションと家庭薬

「薬と健康の週間」にあわせ、家庭薬等に関する正しい知識や使い方に関する一般都民への普及・啓発イベントを東京都薬用植物園にて 10 月 20 日(土) 行いました（イベントの様子は記事別掲 25 ページ参照）。

(3) 第 8 回 JAPAN ドラッグストアショー

平成 20 年 2 月 29 日(金) ～ 3 月 2 日(日) 幕張メッセで開催予定であり、全国家庭薬協議会共同出展には 11 社が参加し準備を進めています。

5. その他

大阪家庭薬協会と香港貿易発展局共催で 6 月 28 日(木) 大阪薬業クラブ 2 階ホールにて「香港セミナー」が開催され、組合員企業にご案内をしました。

広報広告委員会広告統計資料部会

部会長 間部 薫一

(株式会社 金冠堂 専務取締役)

広告資料部会の主な活動業務は広告統計資料の作成ですが、今日まで、38年間に亘り、委員の皆様の熱心なご協力の下に、医薬品広告に関係する資料を収集し、毎年1回編集、印刷を行い組合員の皆様及び行政並びに業界関係団体の皆様のお手元に配布させていただいています。

現在、当部会は6社からの委員で構成され、担当部分を決めて、それぞれの資料収集を行っています。一部の資料が今年の2月末頃にならないと手元に届かない為、3月末目途に完成できればと考えています。統計資料の収集、編集に際しましては、なるべく資料の継続性を確保し、過去の資料と比較し易いようにと考えています。そしてこの統計資料が皆様のお役に立てるよう一層の充実を目指してまいる所存でございます。

参考までに広告統計資料の印刷部数は200部でございますが、配布先は、組合員の皆様のほか、業界紙6社と、関係業界15団体、そして厚生労働省、東京都に配布させていただいております。

なお、平成20年の3月末頃には組合HP(ホームページ)の組合員専用掲示板に次の2点を



差し替える予定になっております。

1. 日本の広告費、2007年日本の総広告費の概要、2007年媒体別広告費、2008年の広告費の見通し
2. 地上デジタル放送に関する資料等
当部会の今後の主な活動は次の2点です。
 1. 広告媒体の多様化の現状をふまえて広告費の効果的な使用に役立つ広告に関する各種媒体資料の収集を行う
 2. 今回の薬事法改正に伴い、広告規制についても情報を収集していく

どうぞ、広告統計資料と併せてHPの資料等もご活用いただければ幸甚でございます。

広報広告委員会広報誌部会

部会長 水谷 睦

(救心製薬株式会社 広告部長代理)

「かていやく」82号の編集会議を10月3日と1月10日に開催し、企画・校正を行いました。今回の特集は、北里研究所東洋医学総合研究所医学史研究部部長の小曾戸洋先生にご執筆をお願いしました。ご存知の方も多いと思いますが小曾戸先生は、昨年の5月にNHK教育テレビ「知るを楽しむ・歴史に好奇心 漢方なるほど物語」(4回シリーズ)に出演され、徳川家康が用いていた薬や江戸時代の漢方事始、明治時代に離れていった漢方事情などについてお話しをされておられました。東洋医学総合研究所及び医学史研究について貴重な情報を教えていただくことができました。

また、会員会社の活動の一環として、香港ICMCM共同出展の様子と情報協業化委員会よりEDI協業化実験報告も紹介いたしました。

ご多忙の中、原稿にご協力をいただきました皆様に感謝申し上げます。

第18回 GMP研修見学会レポート

日新製薬株式会社

救心製薬株式会社 製造部

大西 正康

平成 19 年 10 月 25、26 日の 2 日間、秋の好天に恵まれる中、毎年恒例の東京都家庭工業協同組合主催による GMP 研修会が開催されました。18 回目を迎えた今回は、山形県天童市にある日新製薬株式会社のご協力で工場見学会が行われ、9 社から総勢 13 名の参加となりました。

今回、見学させていただいた日新製薬株式会社は、1953 年に日新薬品株式会社から医薬品の研究開発を行う医薬品研究所として分離後、1957 年に設立されました。現在は、ジェネリック医薬品を中心に、化粧品、食品、工業薬品の製造、また、医薬品の受託製造を行っており、受託可能な製剤は注射剤、錠剤、カプセル剤、散・顆粒剤、液剤、点眼剤、坐剤、軟膏剤と多岐に及んでいます。

工場見学は、工場長による概要説明の後、2 班に分かれて行われました。工場棟への入室時のチェック表には、健康状態の他に髪や爪の状態の確認という項目も設定されていました。また、更衣後のエアシャワー、更に作業室に入室する際には粘着ローラーの使用等、異物

混入防止対策が厳重に行われており、衛生管理面において厳しい管理体制が取られていました。

今回見学させていただいたポリエチレンボトルへの充填・包装ラインでは、直接の容器を充填機内で成形し、直ちに充填・密封するプロフィルシールという、細菌を含めた異物の混入機会を最小限に抑えた充填方法で行われていました。また、ポリエチレンボトルが熱に弱いために困難であった滅菌を、世界に先駆けて導入したパルス光滅菌機により可能にしていました。このパルス光滅菌機はキセノンランプにより太陽光の 2 万倍の光を 200 ～ 300 マイクロ秒照射し滅菌するもので、非加熱滅菌であるため、熱によって変形する容器や変性する医薬品の滅菌に適しています。

その他、充填された医薬品の酸化を防ぐため、ガスバリアー性のプリスター包装を施す等、ポリエチレンボトルが多くの注射剤に対応できるような対策が講じられていました。

工場見学終了後、本社をバックに記念撮影を行い、バスで宿泊先のホテルに向かいました。

その日の夜に行われた懇親会は、池上委員長のあいさつで始まり、参加者全員の自己紹介の後、今回の見学会の感想や様々な意見交換が行われ、盛況の内に終えることができました。

最後になりましたが、今回の工場見学会に快く承諾いただいた日新製薬株式会社、親切で分かりやすい説明くださった社員の皆様に深く感謝いたします。



EDI 協業化実験 報告

情報協業化委員会 委員 崎井 一三

(大幸薬品株式会社)

情報協業化委員会における EDI 協業化実証実験事業は、平成 18 年 11 月 1 日から平成 19 年 10 月 31 日の 1 年間実施いたしました。

目的は、『規制緩和、卸の再編から業態を超えた再々編、小売店の全国チェーン化等々家庭薬メーカーを取り巻く環境は激しく変化しています。このような環境において、家庭薬メーカーも利益確保のため業務の効率化が求められています。EDI が業務効率化の有効な手段であり、それを推進するためには家庭薬業界の協業化が有効であることを検証するため。』

参加メーカーは、株式会社龍角散（以下、R 社）と大幸薬品株式会社（以下、T 社）の 2 社です。そして接続先卸として株式会社コバショウ（以下、K 社）、VAN 会社として株式会社プラネット（以下、P 社）の協力を得て、中継データセンターとなる N 社と契約し実施いたしました。

（接続概念図参照）

実験範囲としては、実験期間を 2STEP に分けて第 1 STEP では発注及び仕入データ、第 2 STEP では請求照会及び販売データ（R 社のみ）の通信を行いました。

実験結果を数値的に報告いたします。行数の 1 行は、1 アイテムと考えてください。

K 社からの 1 年間の受注行数は、R 社・T 社 2 社合計 5,548 行のうち EDI で受注したのは 4,634 行でした。EDI 受注率は 83.5% でした。また、2 社の全体の受注行数は 63,932 行のうち EDI で受注したのは 7,873 行（T 社の実験外 EDI 受注を含みます）でした。EDI 受注率は 12.3% となりました。

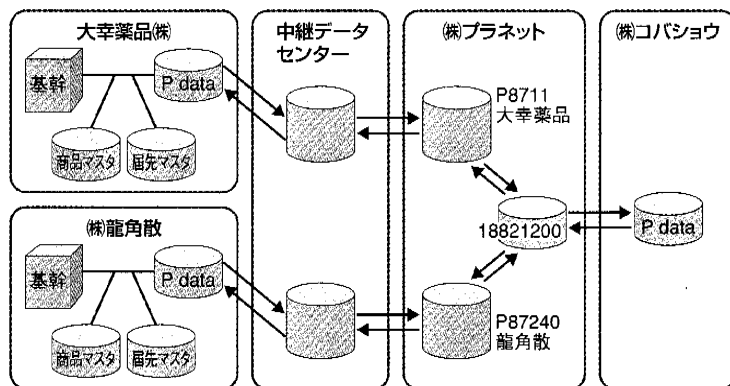
1 行を手入力する時間を 40 秒とすると K 社分で 3,115 分、全社で 5,249 分が EDI 化で短縮で

きるようになります。1 年間の出荷関連業務従事時間を 45,000 分（1 日 180 分・年 250 日）とすると K 社分で約 7%、全社で約 12% に相当します。

1 分当たりのオペレーターの人件費を R 社・T 社 2 社の平均で 48 円と算出いたしました。すると K 社分で 149,520 円、全社分で 251,952

接続概念図

- ・メーカー ↔ NRC 間の通信プロトコル：全銀 TCP/IP 手順
- ・NRC ↔ プラネット間の通信プロトコル：全銀 TCP/IP 手順
- ・ステーションコード：下図参照



中継データセンターよりプラネットVANへの発呼

円節減できることになります。

仮に受注のすべてをEDI化できたとすると、時間で42,621分（年間従事時間の約95%）の短縮、2,045,808円の経費が節減できることになります。

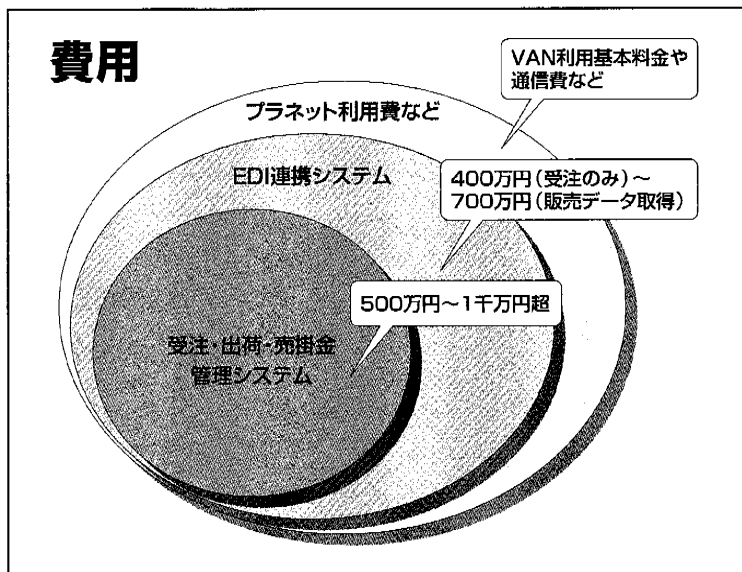
その他に1受注平均1.8行でしたので、4,374枚のFAX用紙を削減したことになります。

FAX用紙1枚のコスト（紙代+機器リース料等）4.6円とすると20,120円の

削減になり、エコにも貢献します。入力ミスも手動の場合3%ぐらいですが、EDIではほぼ0%になります。ミスが削減されることによって、訂正などにともなう時間も削減できます。受注締め時間もEDIによって延長できました。

費用構造は、上図の通りです。各社とも既に何らかの受注・出荷・売掛管理のシステムは構築されていると思います。もしこれから構築するとすれば、50万円（市販の簡易なソフトの導入）から1千万円超（各社の仕様にカスタマイズ）の費用が必要です。次にEDI連携のためのシステムが必要になります。ハードウエア込みで400万円、販売データまで取り込むとすると約700万円が必要です。最後はランニングコストとしてのVAN利用料や通信費が必要です。今回は、協業化ということで中継センターでも費用が発生しました。

EDIの活用は、数値に出たように労力とコストの削減に大きく貢献できます。卸側でも請求照合などの負担が軽減されます。しかし、費用は決して安いものではありません。初期の投資を回収するには長期間を要します。メリットを大きくするにはできる限り多くの得意先と接続



することが必要です。また、システムダウン時の対応等のリスクマネジメントも重要になります。さらにK社側からも、交換データの不備（発注ナンバーや直送における帳合先、商品送付先）を指摘されました。

情報協業化委員会では平成19年10月以降も引き続き実験を継続しております。今後は、効果を増大させるために接続卸を増やしていきます。また、プラネットだけではフォローしきれない得意先もOTC業界にはあります。そこで他のVANとの接続も目標としています。その際に中継センターを利用して各VANのデータを互換利用できるようなシステム開発も模索しています。さらにK社よりご指摘をいただいたマスターの整備にも取り組む予定です。

2社では中継センターを利用することは大きな費用負担になっております。しかし、今後、協業化の趣旨にご賛同いただけるメーカーが増えれば、利用価値はあると考えています。

最後に実験に多大なるご支援を頂戴いたしました株式会社プラネット様、株式会社コパシウ様に改めてお礼を申し上げます。

香港 ICMCM2007 共同出展

救心商事株式会社 貿易部 王 勝弘

全国家庭薬協議会は、平成 18 年から香港 ICMCM 展示会に参加し、好評を得ており、平成 19 年も 8 月の 16 日～20 日の期間に 3 ブースに 14 社が出展。商談、商品の案内とサンプルの配布、実演デモなどの活動を実施しました。

開催日前日の 15 日には香港貿易発展局、香港衛生署、現代化中医薬国際協会を訪問し、

出展企業 (14社)

(株)太田胃散、河合薬業(株)、救心製薬(株)、小林製薬(株)、(株)阪本漢法製薬、翠松堂製薬(株)、大幸薬品(株)、(株)大和生物研究所、常盤薬品工業(株)、長野県製薬(株)、樋屋製薬(株)、摩耶堂製薬(株)、(株)龍角散、ワダカルシウム製薬(株)

漢方薬協議会の役割、漢方薬の生産と貿易諸規制などのブリーフィング及びそれに関する意見交換を行いました。また、位元堂(漢方薬メーカー)、萬寧(チェーンドラッグストア)を訪問し、プレゼンテーションのあと、施設内の見学を実施しました。

16、17 両日はバイヤーとの商談、18～20 日の 3 日間是一般者への展示会を開催。今回の ICMCM への出展社、バイヤー、来客者数は前回よりも増大し、各社の商談がそれぞれに行われて大盛況でした。

このような視察・展示団は現地の貴重な最新情報が得られるので、この展示会を機に、香港・中国へ販路を伸ばしたい、また、これから中国へ進出したい会員会社は、ぜひこの絶好のチャンスを掴んでください。

最後に今回協力して下さった香港衛生署、香港貿易発展局、現代化中医薬国際協会、位元堂、萬寧、全国家庭薬協議会、団長(大幸薬品(株)柴田仁社長)、副団長(摩耶堂製薬(株)古田耕社長)と出展各社の皆様に御礼を申し上げます。



東京都薬用植物園イベント セルフメディケーションと家庭薬

「薬と健康の週間」にあわせた活動として、「セルフメディケーションと家庭薬」と題して、家庭薬等に関する正しい知識や使い方に関する一般都民への普及・啓発イベントを初めて行いました。

2団体（東京都家庭薬工業協同組合と（社）東京薬事協会）と出展企業13社による実行委員会の主催で、東京都と（社）東京生薬協会の共催を得て、東京都薬用植物園において10月20日（土）に実施いたしました。

協賛企業の製品の展示や（社）東京薬事協会からは屠蘇散の処方構成する7つの薬草の説明、（社）東京都薬剤師会常務理事 安部好弘先生からは一般用医薬品に関する講演などがあり、晴天にも恵まれ、300人を超える幅広い年代の方々のご来場がありました。

近年、生活習慣病が注目される時代を反映し、日常における予防・健康管理の意義が再認識されるとともに、一般用医薬品を上手に使用すること（セルフメディケーション）の大切さ



も注目されてきております。一般用医薬品の中でも、昔から消費者に親しまれ使用されてきている家庭薬は、このセルフメディケーションに貢献する医薬品で、薬用植物をはじめとする植物由来原料が幅広く活用されております。東京都薬用植物園では1,600種を超える薬用植物を栽培研究し、一般都民に公開するなど普及啓発活動を行っていることから、東京都薬用植物園においてイベントを行うことになりました。セルフメディケーションの役割・意義やセルフメディケーションに貢献する家庭薬に関する正しい使用方法などの情報を的確に発信していくことは、今後より一層重要な活動の1つになってくるものと考えます。

なお、共催を頂きました東京都及び（社）東京生薬協会に感謝を申し上げます次第です。

（事務局記）

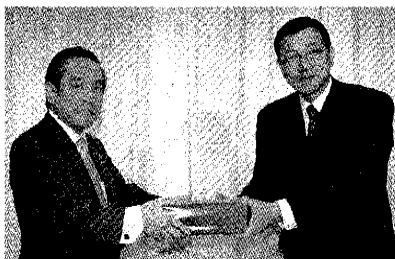


出展企業（13社）

（株）浅田鮎、宇津救命丸（株）、（株）太田胃散、救心製薬（株）、（株）金冠堂、小林製薬（株）、（株）大和生物研究所、丹平製薬（株）、（株）ツムラ、常盤薬品工業（株）、長野県製薬（株）、（株）龍角散、わかもと製薬（株）

家庭薬 グラフィティ

■平成 19 年 受賞者祝賀会兼忘年会
(12月13日、グランドヒル市ヶ谷)

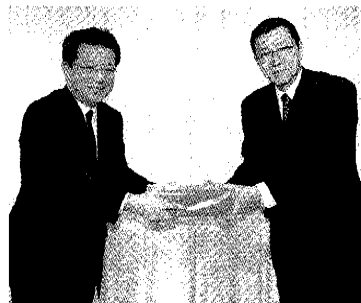


◀東京都知事賞を受賞された
(株)太田胃散の太田美明社長
(左)と記念品を贈呈する堀
正典理事長(右)

■薬祖神祭 (10月17日、東京薬事協会)



東京都知事賞を受賞された
(株)東京甲子社の宮川修作社長(左)▼



◀和やかな雰囲気の会場の様子



■平成 20 年 薬業四団体 新年賀詞交歓会 (1月8日、グランドプリンスホテル赤坂)



■平成 20 年
全国家庭薬メーカー・卸合同新年互礼会
(1月8日、グランドプリンスホテル赤坂)



挨拶をされる
全国家庭薬協議会
牧田潔明会長



挨拶をされる
全国家庭薬卸代表
松井秀夫社長

■第 65 回 家庭薬軟式野球大会 ロート製薬チームが初優勝！

第65回家庭薬軟式野球大会は、21チームの参加のもと、東京薬業健康保険組合グラウンドにおいて行われました。当初10月21日（日）からの予定でしたが、台風の影響や雨のため開始が11月4日（日）となりましたが、次週の11月11日（日）も雨のため順延となり2回戦が11月18日（日）、その後は11月23日（金）、12月2日（日）、そして12月9日（日）には決勝が行われ、ロート製薬チームが初優勝し終了しました。

準優勝はホーユーチーム、3位はフマキラーチームとわかもと製薬チームでした。

12月に入っての決勝戦は第52回大会以来となります。今回は順延が多かったこともあり都合により試合ができなかったケースが多い結果となったことは残念でしたが、好試合が展開されました。参加チームの皆様には、お疲れ様でした。また、スケジュールの変更等でお手数をおかけいたしました。

なお、本年秋には第66回大会の開催を予定していますので、素晴らしいプレーをご披露頂きますよう、そして天候に恵まれることをあわせて祈念し、第66回大会にもふるってご参加いただきますようお願い申し上げます。

優勝：ロート製薬チーム
準優勝：ホーユーチーム
3位：フマキラーチーム
同：わかもと製薬チーム

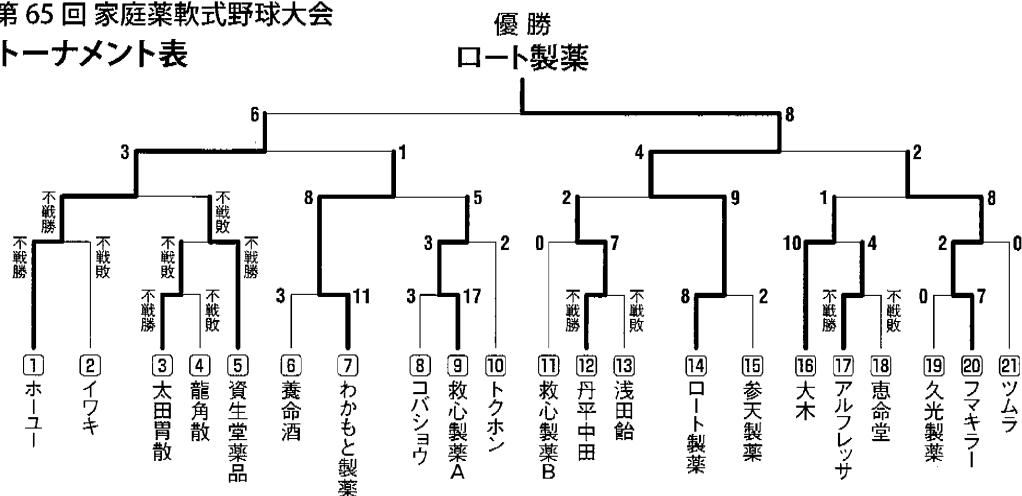


▲優勝したロート製薬チーム



▲惜しくも準優勝のホーユーチーム

第 65 回 家庭薬軟式野球大会 トーナメント表



事務局だより

●9月13日

役員と組合委員会との意見交換の会(場所: 神田明神会館)が開催され、情報協業化委員会及び薬事委員会から活動報告があり意見交換が行われました。

●10月1日

第65回家庭薬軟式野球大会参加21チームによる主将会議を開催し、試合日程そのほかについて打ち合わせを行いました。なお、天候に恵まれず第52回以来の12月に入っての決勝戦となりましたが熱戦が展開され12月9日終了しました。

●10月25～26日

第18回GMP研修見学会が開催され、多数の組合員参加のもと、山形県天童市の日新製薬株式会社の工場を見学させていただきました。

●12月13日

平成19年度の組合関係受賞者祝賀会兼忘年会が、12月定例理事会終了後、グランドヒル市ヶ谷において開催され、多数の組合員が参加されました。

●1月8日

薬業四団体による新年賀詞交歓会並びに平成19年度薬事関係受賞者祝賀会が正午よりグランドプリンスホテル赤坂五色の間で盛大に開催されました。当組合関係の受賞者は、東京都知事賞の株式会社太田胃散代表取締役社長 太田美明氏と株式会社東京甲子社代表取締役社長 宮川修作氏でした。誠にありがとうございました。また、全国家庭薬メーカー・卸合同新年互礼会が

午後2時30分よりグランドプリンスホテル赤坂五色新緑の間で、関係者多数参加のもとに盛大に開催されました。

専務理事退任に際して

稲荷 恭三



2年弱という短い間でしたが、温かいご指導ご厚情を賜り誠にありがとうございました。日々の対応に精一杯で、至らない点多々あったと思いますが、皆様のおかげで何とか無事に過ごすことができました。知識・経験ともに豊富な滋野宣明氏をお迎えでき、新たな視点で皆様とともに活動の充実に図られていくものと確信いたしております。改めて、これまでに御礼を申し上げ、また皆様のご健勝とご繁栄をお祈り申し上げます。

専務理事就任のご挨拶

滋野 宣明



この度、稲荷さんの後任として専務理事を拝命しました。販売制度を主とする改正薬事法が21年4月に施行される等、一般用医薬品を巡る環境は激しく変わってきています。この様な状況の中で当組合の振興のため、元より非才ではありますが、前任者と同様に力を尽くしたいと考えています。ご指導賜りますよう宜しくお願い致します。

■訃報

当組合の理事であり三宝製薬株式会社代表取締役会長 渡邊 吉康様には、12月7日にご逝去されました。ここに、生前のご功績に対し深謝しますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

四歳になる娘が夜店で金魚を獲ってきた。ところが、数週間もしないうちにその金魚の元気がなくなった。金魚を手にお薬で治してあげて」と涙ながらに言ってきた。“けがや病気から命を守ってくれるもの”といった薬への想いの原点に接した気がした。医薬の仕事に携わる者としての志を再認識するような思いだった。数ヶ月して、娘とお祭りにいった。大泣きしたことなどすっかり忘れて「金魚すくいやりたい」といって聞かなかった。やれやれ...

(養命酒製造株式会社 鳥山)

かていやく

通巻82号 2008年1月25日

編集人：東家協広報広告委員会広報誌部会

発行所：東京都家庭薬工業協同組合

〒104-0061 東京都中央区銀座8-18-16

TEL 03-3543-1786 FAX 03-3546-2792

Eメールアドレス/tokakyo@tokakyo.or.jp

http://www.tokakyo.or.jp/

